

ル者ハ重竊盜ト為シ刑法第二百五十三條第
三百八十四條ニ當ツベシ(千八百四十一年五
月十八日訴訟局ノ決議)

然レトモ前項ノ罪ニ處セラル、ハ本人ノ亡産
人ト内通セズシテ自ラ犯カシタル場合ニ限ル
ヘシ若シ亡産人ト内通シタルトキハ共犯ヲ以
テ罰セララルヘシ

若シ共犯ニ非サル片ハ假令盜匿ハ亡産人ノ為
スニスルモノト雖モ高法第五百九十四條ニ準
シ竊盜ヲ以テ論シ詐偽倒産ノ罪ヲ科セス嘗テ

大審院ハ此意味ニ付テ亡産人ノ婦ニ對シテ宣
告ヲ為セシコトアリ(千八百五十三年四月)第五
百九十三條第一項ニ亡産人ノ為メニ其動産又
ハ不動産ノ全部若クハ幾分ヲ匿シ或ハ有テ知
テ無ト詐ル者ハ詐偽倒産ノ刑ニ處スヘシトス
ルモ其次條ニ配偶者及ヒ本系又ハ姻系ノ卑屬
尊屬ニ對シ稍々法ヲ寬ニシテ竊盜ノ刑ニ處ス
トセリ○亡産人ノ為メニ財産ヲ匿避セシ亡産
ニ関セサル者詐偽倒産ノ刑ニ處セララルヘキ場
合ハ配偶者亡産人ト共犯ナラスニテ犯罪セシ

時ニ對シテハ不充分ト謂フベシ
第五百九十五條〇愛刑ノ時、ミナラス放免ノ
時ト雖モ判事ハ第五百九十三條及ヒ第五百九
十四條ニ示セル場合ニ在テハ亡産資金ニ隱匿
セシ物件ヲ還付セシムルヲ得ベシ又之カ為
メ損害要償ノ訴アルトキハ之ヲ判決ス

註〇詐偽倒産ノ共犯ニ對スル訴訟ニ付テ民
事原告人トナラサリシ管財人ト雖モ其處刑
後彼ニ對シ損害要償ノ訴ヲ為スヲ得ベシ
千八百四十一年六月九日リオム裁判院ノ決

議

第五百九十六條〇管財人不正ノ所為アル片ハ
二月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ且不正ノ金額
等ハ之ヲ償ハシム(刑法第四百六條)法律ニ於テ
此事ハ信用ヲ害スル者ニシテ嚴罰ヲ加フヘキ
者トセリ

第五百九十七條第五百九十八條第五百九十九
條〇債主亡産ニ關スル評議ニ付テ亡産人又ハ
他人ト申合セ利益ヲ受ルノ密約ヲ以テ彼等ノ
利益ノ為メニ投票セシ片ハ輕罪裁判所ニ於テ

一年以内ノ禁錮ニ處シ且二千ヲラシク以下ノ罰金ヲ科スヘシ

此條ノ目的ハ亡産資金ヲ債主中ノ一人ノ利益ノ為メニ減少シ差ニ多數決ニ付テ詐偽ノ所為アルヲ防クニ在リ

又投票ノ為メナラサルモ亡産資金ニ損害ヲ生スヘキ特約ヲ亡産人ト取結ヒタル債主ハ前項ニ同キ處刑ヲ受ケ且償金ヲ科セラルベシ蓋如此者ハ亡産資金ヲ減少スル者タルヲ以テ法ニ於テ之ヲ許サ、ルナリ

註○第五百九十七條ニ依テ宣告セシ刑ヲ實施スルニハ債主亡産人ト特約ヲ為セシキ支償謝絶ヲ為セシテ知ルテ要ス(千八百四十六年二月十二日訴訟局ノ決議)然レトモ此特約ヲ為セシキ負債人ノ亡産ヲ公告セラレタルヲ要セス(千八百四十六年五月二十三日及千八百四十六年四月三日訴訟局ノ決議)又特約ヲ為セシ債主亡産ノ管財人ナレハ禁錮二年ニ至ル刑ヲ受クルヲアルヘシ蓋シ管財人

ハ各債主ノ利益ヲ保護スル任アレハナリ
右等ノ特約ハ無効ヲ言渡スベシ且亡産人モ其
無効ヲ請求スルヲ得ベシ(一)破毀セラレタル
條約ニ付テ債主前ニ受取タル金額ハ真正ノ權
利アル者ニ返却セサルヘカラス

註(一)千八百四十六年四月三日千八百五十四
年七月四日大審院及千八百四十五年五月
五日エキス裁判院ノ決議○輕罪裁判所ハ此
契約ノ無効ヲ宣告スルノ任ヲ有ス(千八百四
十六年五月二十三日刑事訴訟局ノ決議)

又民事原告人特約ノ無効ヲ訴ルハ商事裁判所
ニ為スモノトス

學士ハ被告人ノ管轄商事裁判所ノ權限ナリト
ス何トナレハ法律ニ特條ナキヲ以テ普通法ニ
依ラサルヘカラス

註○口ヌーアル第二卷第四百六十九枚

予ハ亡産處分ヲ擔當セシ商事裁判所ヲ指示セ
シ法ノ精神ナリト思考ス

第六百條○亡産人ヨリ外ノ人ノ犯シタル重罪
輕罪ニ付テノ處刑申渡及ヒ通常若クハ詐偽ノ

倒産人ニ對スル處刑申渡ハ商法第四十二條ノ
成規ニ據リ(千八百六十七年七月二十四日ノ法
律第五十六條)犯人ノ費用ヲ以テ揭示及ヒ公告
ヲ為スモノトス

第四章 倒産ノ場合ニ於テ其倒産人ノ財 産ヲ支配スル方法

第六百一條〇倒産ノ訴訟及ヒ處刑アル場合ニ
於テハ刑事裁判ト亡産ノ處分トハ全ク區別シ
テ毫モ混淆スヘカラス亡産ノ商事訴訟ト加刑
ノ訴訟トハ互ニ關係ナキモノナリ第一卷ニ列

記セル財産ニ關スル規則ハ總テ輕罪裁判所ニ
モ重罪裁判所ニモ訴ルヲナク關スルヲナクシ
テ之ヲ施行スルヲ要ス

併ナカラ隱蔽ノ物品ヲ返却シ及ヒ第五百五十
條ニ掲クル損害要償ノ訴ニ付テハ刑事裁判權
ノ處分ニ得ヘキトハ予輩己ニ前ニ論シタリ

第六百二條及第六百三條〇檢察官証書類及ヒ
書面類ヲ差出ストヲ求ルトキハ管財人ノ差
出サ、ルヘカラス是刑事裁判所ヲシテ亡産ノ
模様ヲ知ラシメ且告訴ノ當否ヲ判明ナラシム

ル為メナリ

管財人ノ差出シタル証書類及ヒ書面類ハ犯罪
吟味中裁判所ノ書記局ニ備置キ関係人ニ之ヲ
見ルトテ許ス又管財人ハ其私寫ヲ為シ又ハ書
記局ニ請テ正寫ヲ受ルトテ得ベシ

裁判書^申渡ノ後証書類及ヒ書面類ハ別段留置ク
トノ^申渡アルニアラサレハ直ニ管財人ニ還付
スヘシ但シ管財人ハ其受取書ヲ差出ス者トス

第三卷 亡産人の復権

亡産ノ公告申渡ヲ受ルトキハ亡産人ハ數種ノ
不能力ニ係リ(一)亡産ノ現況ニ在ルモノハ民権
ノ施行ヲ停止セラル、ナリ(佛國共和政治八年
第三月二十二日制定憲法第五條)亡産人ハ手形
賣買世話人又ハ商業世話人タルコトヲ得ス(高
法第八十三條)又假令商業ヲ營ムコトヲ得ルト
雖モ高事會議所ニ出席スルヲ得ス(高法第六
百十三條)

註(一)和約ニ関スル千八百四十八年八月二十
二日ノ布告ハ千八百四十九年十一月十二日
ノ法律ヲ以テ廢セリ此廢セラレタル法律ハ
千八百四十八年二月二十四日ヨリ八月二十
二日マテノ間ニ為セシ支償謝絶ニ執行シ其
目的ハ二月二十四日以後ニ支償謝絶ヲ為セ
シ者ハ亡産ノ現況ニ屬スル不能力ト亡産ニ
適合スル性質トヲ辨シメタルモノナリ
然レトモ此ノ不能力ハ復権ニ就テ回復スルコ
トヲ得ベシ

復権ハ^{レスチエーレヨンアン・アシキエー}全部回復ノ一種ニシテ亡産前ニ有シタ

ル所ノ權利ヲ悉皆再有スルヲ得ルモノトス
第六百四條○復権ヲ得ルニハ亡産人已ノ負フ
タル元金利息及ヒ費用ヲ全償シタルコトヲ要
ス
債主ヨリ延期ノ承諾ヲ受ケ及ヒ即刻拂フヘキ
分配金ヲ拂入タルヲ證明スルヲ以テ未タ復
権ヲ得ルニ足レリトセズ蓋シ復権ハ亡産ノ跡
跡ヲ全消スヘキモノニ付キ負債ヲ全償セシモ
ノニアラサル以上ハ之ヲ得ルヲ得ス

註○大審院ノ決議ニ曰亡産人復権ヲ為セシ

上ハ其以前ニ全償セサリシ債主ニ對シテ必
ス負債ノ全額ヲ拂ハサルベカラス而テ和約
ニ依テ約束セシ分配高ノ外之ヲ拂フノ義務
ヲ有セスト主張スルコトヲ得ス其說ニ曰債
主ヲシテ和約ヲ為サシムルハ仍ホ亡産ノ成
立ヲ認ムルナリ而テ此亡産ハ則復権ニ依
テ消滅スルモノナリ(今八百四十六年五月二
十日大審院ノ決議)○又同院ノ判決ニ願人第
六百四條ニ掲ケタル証拠ヲ差出セシヤヲ檢
査シ其許可スヘキヤ否ヲ決定スルハ^{クルル}皇帝裁

判^ル院ノ権内ナリ蓋シ總テ證書類ヲ細密ニ吟味シ説明ヲ附スル^ルヲ要セズ但シ特別ニ書類ヲ檢閲シ及對ノ結果ヲ生スル場合ハ此限ニ在ラス(千八百五十三年八月九日訴訟局ノ決議)

亡産ヲ為セシ會社ノ社員ハ債主ト特別ノ和約ヲ為セシ時ト虽モ會社負債ノ元金利息及ヒ費用ノ辨償消ニ至リシコトヲ證明スルニ非サレハ復権ヲ受ル^ルヲ得ス

第六百五條○復権ヲ願ハントスル亡産人ハ其住所ノ管轄抗訴院ニ請願書ヲ差出スヘシ負債辨償ノ請取証書其他返済ノ証據トナルヘキ書類ヲ添ル^ルヲ要ス(書式第二百二十五号ヲ見ルベシ)

第六百六條○前條ニ掲クル請願書ハ控訴院檢事長之ヲ受ケテ副本ニ署名シ之ヲ亡産人住所ノ商事裁判所ノ檢事及ヒ所長ニ送致ス可シ若シ其住所最初亡産ヲ公告セシ場所ナラサルハ他ノ寫志本^ヲ、ヲ最初亡産ヲ公告セシ地ノ商事裁判所ノ檢事及ヒ所長ニ送致ス可シ

右ノ換事及ヒ裁判所長ハ各事實ノ真偽ヲ検査

ス

故ニ右ノ官夫ハ亡産人請願書ノ副本ヲ其裁判
所ノ法廷商事會議所及ヒ戸長役場等ニ揭示セ
サルヘカラス此揭示ハ二月間之ヲ置キ且新聞
紙ニモ挿入スヘキ者トス(書式第二百二十六條
ヲ見ルベシ)

第六百八條ノ前条揭示ノ間ニ未タ貸金ノ元金
利息及ヒ入費ヲ拂ハレサル債主及ヒ関係者ハ
其証拠物ヲ通常ノ願書ニ添ヘテ書記局ニ差出

シ復権ニ對スル抗禦ヲ為スヲ得ヘシ(書式第
二百二十七條ヲ見ルベシ)(一)然レトモ原被両造
ヲ聞知シテ吟味スル事柄ニ非サルカ故ニ抗禦
人ハ復権ノ吟味ニ加ハルヲ得ス

註○第六百八條ニ於テ未タ拂ハレサル債主
及ヒ関係人ニ與フル期限ハ實際嚴ニ行ハル
モノニ在ラス故ニ復権ノ請願揭示ヲ要スル
ニヶ月間ノ後ニ於テモ裁判所ハ抗禦書ヲ受
理スルヲ得ヘシ(千八百五十三年四月十九
日ホヲ裁判院ノ決議)

第六百九條○復権請願書揭示ノ期限満ルトキハ商事裁判所ノ換事及、所長ハ各自ニ債主ヨリ受取タル抗禦書及、事實取調ノ模様書ヲ控訴院換事長ニ差出し且請願ニ付テノ自己ノ意見ヲモ添フヘシ

第六百十條○右等ノ手續ヲ了リタル後換事長ハ控訴院ヲシテ復権請願ノ許否ヲ判決セシム書式第二百二十八條ヲ見ルヘシ

請願書ヲ却下セラレタル亡産人ハ仍ホ一年ヲ経ルニ非サレハ再ニ請願スルヲ得ストス(一)立法者ノ意ハ一年ノ期限内ニハ亡産人不足ノ證據書類ヲ取集メ且負債ノ残額ヲ辨償スルヲ得ヘシトスルニアリ

註(一)バルドニエ氏曰復権請願ハ再ニ為ストヲ得スト(其舊書千三百十六号)此説ハ商法ノ古キ箇條ニ依レハ真正ナリト雖モ千八百三十八年ノ法律ノ條ニ依ルトキハ真ナラス數名ノ學士ハ再ニ却下セラレタル復権請願ハ三ニ請願スルヲ得スト論定セリ予ハ如此意見ヲ証スルニ理アルヲ知ラス第六百十條ニ

於テ第一回請願ト第二回請願トノ間ヲ一年ト
定メタリト虽モ是ヲ以テ復権ヲ請願スルノ
権利上ニ別ニ區域ヲ定ムルナシ

第六百十一條○控訴院ニテ復権請願ヲ許可ス
ルトキハ最初同院ヨリ請願書ノ寫ヲ送達シタ
ル各商事裁判所ノ檢事及ヒ裁判所長ニ許可ノ
申渡書ヲ送達ス可シ○商事裁判所ハ此申渡ヲ
公ケニ讀上ケ且簿冊ニ登記ス可シ

第六百十二條○復権ヲ得ルノ榮ヲ得サルモノ
アリ詐偽倒産人竊盜欺偽破信ノ罰ヲ受タル者

ステリヲナシ所有權及ヒ抵當上ニ
付テ詐偽ヲ為シタル者ノ答ヲ受ケ

タル者はナリ○後見人財産支配人及ヒコシタリ算計人
ハ其計算ヲ為シ送金セシ後ニアラサレハ復権

ヲ為スナラ得ス

通常倒産人ハ其受タル刑罰ヲ終リタル上復権
ヲ為スナラ得但シ期滿得免ヲ以テ復権ヲ為ス
ナラ得ス

又亡産人ハ其死去ニヨリテ復権ヲ得ヘシ

